

駒澤大学 1 - 2 神奈川大学

決定機ものにもできず惜敗

2 失点目を許し、呆然とする
守備陣

(撮影: 白瀬忠意)

5 月 15 日 13:50 西が丘サッカー場

駒大 1 (2-0) 2 神大 (2-0) (9位)

得点者 (アシスト)

[駒] 34 分: 渡邊 (奥村)
[神] 74 分: 村岡 (山口)
[神] 75 分: 佐々木 (平塚)

KOMAZAWA

GK①松浦和己(4)
DF②砂川太志(4)
DF⑤三宅 徹(4)
DF④林堂 真(4)
DF⑥濱田 宙(4)
MF⑤山崎紘吉(4)
(81分 MF⑮宮城雅史(3))
MF⑭碓井鉄平(2)
MF⑦奥村 情(3)
(73分 MF⑨肝付将臣(4))
MF⑧湯澤洋介(3)
(81分 MF⑯小牧成(1))
FW⑪渡邊涼(4)
FW⑫山本大貴(1)

SUB

GK⑫大石健太(2)
DF⑳三澤祥馬(3)
DF⑱水野裕之(2)
MF⑳板倉直紀(1)

MANAGER

KANAGAWA

GK①高橋拓也(4)
DF⑬中武駿介(3)
DF⑤大野洋樹(4)
DF④成田進太郎(4)
DF⑩山口由真(4)
(64分 DF⑱渡部雄史(3))
MF⑲木原 将(4)
MF⑮鈴木拓也(4)
(86分 MF⑳島田 譲(2))
MF⑩佐々木翔(4)
MF⑦工藤隼人(4)
FW⑱越水将一(3)
FW⑪村岡拓哉(3)
(90+2 分分 FW⑨沖宗亮真(4))

SUB

GK⑬赤堀勇太(3)
DF⑳山地 翔(2)
MF⑰寺島尚彦(4)
FW⑱小井土 翔(3)

MANAGER

古賀健児

[シュート] 121: 9 [GK] 12: 9 [CK] 6: 4 [直接FK] 17: 22
[間接FK] 2: 2 [OS] 2: 2 [主審] 塚越由貴 [観衆] 約 220 人

警告 (C) / 退場 (C)

[駒] 湯澤洋介 (C)、佐々木 翔 (C)、村岡拓哉 (C)

悪夢の 1 分間から逆転負け

「ただ今日は、今までやった 3 試合のなかで一番よかった。得点するチャンスはたくさんあった。ゴール前がもう少しちゃんとすれば可能性はある」と秋田浩一監督も語ったが、試合内容は神奈川大と比較しても決して劣るものではなかった。勝敗を分けたのは決定力の差だった。

前線の渡邊諒 (大宮アルディージャ Y) の高さを生かして DF ラインからロングボールを放り込む駒大に対し、10 番の佐々木翔 (城山高) を中心にしっかりとパスをつないで崩そうとする神大。対象的な攻撃パターンを持つ両者だが、最初にチャンスを掴んだのは前者だった。14 分、林堂真 (習志野高)、碓井鉄平 (山梨学院大附属高) のパス交換から山本大貴 (ルーテル学院高) が DF を 1 人かわしてシュートを放つ。GK に阻まれはしたが、この試合最初のビックチャンスを迎える。その後も山本は相手 DF ラインの裏を狙う動きを繰り返し、チャンスを創出した。開幕から未だ得点がない駒大攻撃陣の中核を担う山本ただけに、ゴールへの強い意欲がプレーから感じ取ることができた。また、開幕からスタメンに定着していた

肝付将臣 (熊本学園大附属高) に代わり先発出場した渡邊も、前線で起点となるべく、体を張ったプレーから決定機に絡んでいく。31 分にはその渡邊が試合を動かした。「足よりも頭の方が正確だと思った」と、奥村情 (名古屋グランパス Y) のクロスを頭で押し込み、チームの今季初ゴールを挙げた。これでリズムを掴んだ駒大は積極的に前にいく姿勢を見せ、神大を攻め立てる。だが追加点を奪うまでには至らない。

後半は 16、20 分に林堂が FK から見せ場を作るが相手も反撃を見せ、中盤のパスワークから駒大 DF に揺さぶりをかけてくる。25 分以降はサイドを破られるシーンが増え、74 分には失点を許し同点に追いつかれてしまう。「1 点を取られた時、立て直すことができなかった」濱田宙 (市立船橋高) と、この 1 分後には勝ち越しゴールを献上。一瞬の隙を突かれ、逆転を許してしまった。その後、選手交代で前線に変化をつけようと試みたが、神大の DF 陣に攻撃を遮断され 1 点が遠い。結局、最後まで追加点を挙げることはできないまま、試合は終了。今季、初得点は生まれたが初勝利は生まれなかった。(田中幸生)